

巻 頭 言

『異文化経営研究』第9号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第9号を発行することができ、ありがたい限りである。本誌は、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文一篇と研究ノート二篇に加えて、研究会の講演抄録二篇を掲載している。執筆者や編集者をはじめ、発行に至るまで多くの方々に尽力いただいた。心より御礼を申し上げたい。

2003年に設立された本学会も、おかげさまで質と規模の両面で順調に伸びており、会員数も350名前後となり、経営や経済を中心とする様々な分野の研究者と海外経験豊富な実務家の知的研鑽と交流の場となっている。また若手の研究者や大学院生の会員も増えて、年齢と社会的地位とジェンダーを越えた活発な議論が行われている。とかく年功序列がいまだに跋扈する日本社会にあって、本学会では多様な文化の担い手が同じ土俵で論を戦わせる姿が実現しつつあることは喜ばしい限りである。

設立10周年を迎える2013年には、新たに学会賞を創設し、優秀な研究には賞を授与する予定である。対象は、著書と論文と自由論題報告である。なお、論文に関しては、学会誌『異文化経営研究』に掲載された論文を対象とするため、会員のみなさんには今後もふるって投稿していただきたい。

本学会はこれまで東京を中心とした活動を行ってきたが、2013年には、九州や関西や北越などの地域においても徐々に部会を設立し、日本の津々浦々まで「異文化経営」が浸透するきっかけを作りたいと願っている。

ご案内のとおり日本を取り巻く状況は決して楽観できるものではなく、経済もさりながら政治はまさに混とんとしている。本学会誌が発行されるころには、新しい首相も選出されているだろうが、いずれの政党が政権を取ろうとも、日本がもっと多様性を受け入れてダイバーシティを活用し、異なる文化を恐れることなく、むしろ楽しみとして、そこから生まれるエネルギーを元気の源とする姿勢とアクションが必要不可欠であることに変わりはない。

これからも、異文化経営を通じて世界に貢献することができるよう、会員の皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げます次第である。

2012年12月

異文化経営学会 会長

馬 越 恵 美 子